

地下資源の発見と開発

(その3)

鉱山発見の開拓者たち

郷原 範造

1. 国際的非鉄鉱山会社ファルコンブリッジの創設
2. 苦闘の金 レッドレイクの発見
3. ノーザンカナダより生まれた『ノラダ』の探鉱
4. 小説に因み発見されたフリンフロン 物探で発展したハドソンベイ
5. アンビル鉱山の発見と探鉱

(1) 国際的非鉄鉱山会社ファルコンブリッジの創設

1887年まで カナダにおける非鉄金属鉱物の発見はサッドベリイ盆地の南西部が主体であった。 というのも北部や東部は特に深い森林と湖沼におおわれ 表土も厚く堆積していたからである。 しかし これも時間が解決し まず南東部で鉱物が発見された。 森林監守人であった リチャードドナフィがファルコンブリッジの部落一帯を見廻ったある日 赤緑色に輝く変わった岩石を発見した。 その岩石は銅とニッケル鉱物を含み これが今日 ニッケルでは世界第二の生産をあげ 世界の鉱業会社では特異の存在となっている ファルコンブリッジ発祥の鉱石であり 鉱区である。 カナダの鉱業史では一応ドナフィを発見者としているが 鉱業歴史家で知られているリチャードロングエアーは 鉱床学者の通説するエコノミックゼオロジイ(1956)の中で

『私の見解では ファルコンブリッジ鉱床の発見功労者はトーマスエジソン ウィリアムスミス そしてハウフロバートである』

とのべている。 ウィリアムスミスは アメリカミネソタ州ミネアポリス出身の法律家である。 カナダの鉱物に魅力を感じ探鉱家に転進して当時サッドベリイに住んでいた。 一方ハウフロバートは ミネアポリスのロングエアー探鉱会社に勤めていた地質技師で 当時カナダに出張して スミスと知己を深めていた。 二人は トーマスエジソンがニッケルアルカリ電池を作るに必要なニッケルを探鉱するため堅坑を掘り 地表から25mで崩壊したままとなっているのを開込み これを買収した。 二人は堅坑を復修し ロバートが計画しスミスがこれを実行した これは1916年に再開された。 再開後 エジソンが中止した所からわずかに6m下部で大鉱床に到達した。 鉱床は立派な銅 ニッケル鉱であり 驚くなかれ埋蔵量570万トンに達するものであった。 しかし 二人はエジソンの亡霊に悩まされてか相次いで死亡し 相

続者のベネットとロングエアーが鉱山開発を引つぎ これが今日のファルコンブリッジニッケル社に成長していったのである。 しかし会社は 設立したもののバラ色で前進はしなかった。 前記二人の死亡と技術 資金不足に悩み 無益に10年以上はすぎている。 最低でもコストに見合う生産をするためには約250万ドル(9億円)の調達が必要であった。 当時としては前記カナダニッケルカンパニーやインコに立ち向かうことは相当厚い壁であつたらしい。

ここに一人の鉱業人が登場するのである。

彼の名前はセイヤーリンドスレイである。 彼はサッドベリイの他の地区で鉱区を設定し 積極的に探鉱したかいあって新鉱床を発見。 1926年に サッドベリイバーズンマインリミテッドなる会社を設立して開発に乗出した。 リンドスレイの人物評をオンタリオ政府高官は『リンドスレイほどカナダの鉱業人のうち注意深く 勤勉な人も少ない』とのべている程で 彼は計画を綿密にし 二年後ニッケル 銅の価格が下り 多くの鉱山が維持出来なくなった時も鉱山を休止することなく経営を続けている。 しかし 彼も『今後の会社経営は共同事業である』ことに注目し ファルコンブリッジを1928年買収する形で合併したのである。 かくて合併したファルコンブリッジは 救世主リンドスレイの登場により再建され 製錬所も建設し 1930年には300トンのニッケルマットが出荷され 鉄道開通と共に町も拡大して行った。 しかし 残された問題はニッケル精製であった。 1930年代には インコは一層拡大し 前記モンド社とも合併し一大企業となり ハイベニット精製法を独占し ポートカリボーネにそのプラントを建設して操業していた。 そこで レンドスレイはインコのニッケル抽出法の処理権を得て 欧州で操業すべく計画したのである。 ノルウェーのクリスティアンスタンドのプラントを買収し マットを船積してそこで精製販売を開始した。

この時からファルコンブリッジのニッケルは 第二次大戦中を除いてノルウェーで精製されている。 ドイツに一時占領されたこともあるが 同社は不景気の時も痛手をうけることなく順調に生産されて拡大し 1931年にはアメリカの鉄鋼会社へ大量輸出され その量は約1,750トンに達し 1933年度における純利益は 4億円に達す

るまでになっている。朝鮮動乱が1950年勃発した時はニッケルの需要はさらに増加し ジェット機材 原子力・宇宙工業の発展と共にファルコンブリッジも鉱山 製錬 精製工場を拡大し そのニッケル生産も年間15,000トンから27,500トンとなり 1964年には遂に40,000トン台の生産となっている。

1957年以來 同社の社長フラッシュャー博士はいろいろの会社を吸収合併し 多くの子会社 関連会社を設立しカナダのほか国際的にもユニークな存在となっている。

関連会社として今日 次のものがある。

- (1) ユーコン準州のユナイテッドケノヒル銀 鉛 亜鉛鉱山
- (2) カナダ西部にあるジャイアントエローナイフの金鉱山
- (3) アフリカ ウガンダのキレンベのカッパーコバルト鉱山
- (4) ケベック州のオペミスカ銅鉛鉱山
- (5) ニカラガの銅 鉛 亜鉛 ニッケル鉱山
- (6) アルバータ州の石油ガス田開発

リンドスレイは重役会のメンバーとして 今日84歳を数えながら 大西洋いや世界を跨にかけて活躍が続いている。同社は常に新しい鉱山に注目し 探査に力を入れて鉱石をみつけ毎年良鉱体を発見している。その一つがカナダに知られているノース銅鉛山であり ストラス銅ニッケル鉛山である。かくて同社はカナダニッケル生産の1/3を占めるようになり 最も新しい鉱山開発は北ケベックで始めているウンガバ地方のニッケル銅鉛山である。同社社長フラッシュャーは カナダサスカチオン州生まれの技術者であり ハーバート大学の博士コースを終えたあと ファルコンブリッジの探鉱開発を担当し 1957年よりその職にある。同氏は『今後 国際的な飛躍を目標にする』とその年頭挨拶をしている。なおフラッシュャーはトロント大学の教授も兼任しており 鉱山経営については権威者として知られている。

(2) 苦闘の金 レッドレイク発見

カナダ アメリカの国境には五大湖がある。その一つがスベリオル湖である。このスベリオル湖の北西方約440km 人跡未踏の荒野に白人がわけ入ったのは1786年のことである。白人達はハドソンベイの競争者ノースウェスト会社の商人達で 金や銀鉛よりも毛皮類に興味をもって来ていた。その根拠地は湖のほとりレッドレイクの田舎町である。

『レッドレイク』がそう呼ばれたのは インディアンの伝説で 湖の水が動物の血によって深紅に染められたとも 一説には悪魔によってインディアンの狩人がこの地で殺されて赤く染まったともいわれている。

1920年代から このレッドレイクは鉱業活動の一つの

中心となり悲喜こもごもの活動が繰り広げられ ある者は失望し ある者は成功して鉱山を開き大きい富を築いている。こうしてこの地では1930年代 12鉱山が操業生産し うち4鉱山は今日でも金を生産している。レッドレイクは有史以来2億6,500万ドル(954億円)の利益を上げ 今日でも約7,000人の人達が生活している。

40年前まではこの地に行くためには湖を渡りつぎ カヌーで行く以外に方法はなかったが 今日ではハイウェイおよび空港が設備され 近代的な町となっている。

レッドレイク周辺が鉱業的に重要であることを初めて発表したのは カナダ政府の地質技師ロバートベルである。この発表は1893年のことで このレポートがこの地区の最初の探鉱活動をリードした。1897年 イギリスの探鉱グループは この地に調査クルーを送り 地質技師ギルバートの指揮によって調査を始めた。到着して数カ月目 幸にも湖畔で脈状の金を発見した。金は人の心を曲げるといわれる通り パーティの内ゲバによって隊長のギルバートは殺され クルーは分裂してしまった。かくて調査隊は不成功に終わり 一時期レッドレイクは昔の寒村にもどった。そして四分の一世紀がすぎた。

その後この地を訪れたのはクィーンズ大学のブルース教授である。彼は20年の研究結果を発表した。

『鉱物露頭は特に発見されなかったが 地質鉱床学的にはきわめてポテンシャルの高い所である』とのべている

このレポートは探鉱家を刺激し 1922年には多くの探鉱家 地質技師がこの地に乘込み 特に銀鉛をめざすものが多かった。この地に来た山師 技師は約50人の人達が知られている。それらの人達のうちから いくつかを紹介する。

その一つのパーティに エルバートティレル フレドキャロル オーレガスタフソン オーレサンドからなる組があった。彼等は25年前イギリスのパーティが失敗した所を再調査し彼等の一人 ティレルがここで自然金を再び発見している。これが今日も生産が続いているマッケンジーレッドレイク鉛山である。ティレルとキャロルは別な所でも自然金を発見し これがその後マクマック鉛山 リッチマック鉛山となり 前者は1940年～1948年 後者は1940年～1950年生産している。

キャロルはまた南部で自然金を発見し コチエノールウィリアムズ鉛山を開発し レッドレイク地区では最も優秀で成功した鉛山となっている。この地で初期に生産開始をした鉛山としてハウリイというのがある。

1930年に生産に入っているが ローネハウリイ マックハウリイ兄弟によるものである。

以上のようにレッドレイクは1925年以来金ブーム地帯となっているが 興味深い男としてマリアスマドセンというのがある。彼は20歳の時 遠くデンマークからカナダに移民してきた若者で 初め鉱山会社に就職したがカナダに失望して 一時帰国した。しかし『デンマークでは将来性がない』と再びカナダにもどり 1926年1月5人の友人と4匹の犬と共にこの地にやってきた。金発見のブームに乗ったこの若者達は 早速あちこちを探鉱したが 仲間は一人数減り 二人減って 遂にマリアスマドセン一人になってしまった。それでも彼は血のにじむ思いをして金探しに没頭し 遂に金鉱脈を発見した。これがその後発展したマドセンレッドレイク鉱山会社である。レッドレイク鉱業人の一人にネプファルケンハムという男がいる。彼は鉱業資材を販売する商店を開き 食堂を経営し また探鉱に必要な犬を提供していたが 1926年には彼自身鉱山開発に乗出して成功している。今日この地にあるファルケンハム湖は彼に因んで名付けられたものらしい。

カナダ鉱業史によく出てくるマクドゥノウーも1926年この地で金生産をしている。彼は前記マドセンと鉱山を統合し マドセンレッドレイクマインリミテッドと改称して大きい企業体とすることに成功している。

マドセンの友人にオースチンマクビーフという男もいる。彼は最初マドセン社で働いていたが 北方で富鉱体を発見し 1937年には彼自身 鉱業主となりハウイー鉱山として850 t/日の生産に成功している。

前記マドセン鉱山は高品位金鉱で維持され 今日 レッドレイク地区では主要鉱山の一つである。1970年約400人がここで働き 1938年より今日まで約700万トンの鉱石が採掘されている。

(3) ノーザンカナダより生まれた『ノランダ』の探鉱

老練でかつ経験豊かな探鉱家が1920年 カナダケベックの北西部一寒村で発見した『最も魅惑の一片』が今日では世界で最も大きい鉱山の一つとなっている。この一片がノランダ鉱山企業体の核であり 発祥でもある。

その老練な探鉱家とはエドホーネである。彼は225ドル(81,000円)のグループステーク契約によって大鉱床を発見し それが成長して今日の鉱山 投融資 機械の総合会社ノランダになったのである。

今日 ノランダの3万株株主の91%はカナダ人でありうち86%の株はすでに発行済である。ノランダは54の操業会社を擁し うち27の鉱山(うち16鉱山はカナダ)5つの製錬 精製所をもち 34の機械工場よりなり15,000人以上のカナダ人が働き 年間の全企業の販売高は 5億ドル(1,800億円)に達している。ところでノラン

ダの根拠地ケベック州が鉱業州となったのは フランス人が移民してきたあと 1920年ホーネが鉱床を発見した後である。以後 鉱業についてはノランダが指導を続けケベックの鉱業生産はいやが上にも急伸している。

エドホーネは 鉱業レベルの高い大西洋岸パスコチャに生まれ 全生涯を鉱業にささげた人である。

彼は19歳の頃 はじめて自宅に近いエンフィールドの金山で働き その後アメリカに渡り いろいろな鉱山を見学し鉱業知識を習得した。その後彼はカナダ北オンタリオの地下資源に注目し トロントに近いニューリスカードに家を新築し そこを活動のベースにした。当時すでに北オンタリオでは 鉱業活動が精力的に進められコバルト町のシルバーラッシュ時代でもあった。

ホーネは美しい金鉱をみては自宅周辺の山々をめちやくちやに歩き廻ったという。彼の歩き廻った地方の一つにオンタリオとケベック州境の鉱床地帯もあった。州境より約50kmの所にオシスコ湖があった。その湖は後にトレモイ湖と呼ばれているが 彼は回顧録の中でこう書いている。

『私はこの湖畔で鉱化作用を示す示徴を見付けた。しかしその示徴は今までみてきたものと全く異質のものである。私は魅力ある片鱗をここで見て この地は有望と感じた。しかし土壌を集めて水洗したが 金は一粒もとれず一度はあきらめてほかを歩いていた。しかしどうしてもオシスコ湖の魅力があきらめきれず 私は5年後再びこの地を訪れた。時に1917年のことである。私はオシスコ湖で中食をとっていた時 鉱化作用をうけた流紋岩を発見した。見た目にはあまり価値あるものではなかった。しかし流紋岩の多い所を掘ってみたら黄鉄鉱が多く出てきたので 価値ある鉱化帯の一部であると信じた。しかしすでに所持金もなく これ以上仕事を続けることが不可能となった。

私は 早速町にどもりあちこちと歩いて金主を探し廻った。現物のない話には誰も耳をかしてくれない。こうして時間がたち むだな日々が続いたが やっと11人の人達が私の話を信じ 資金を集めてくれたのである。この資金が合計225ドルである。鉱床の発見によりその後資金は3,500ドルとなり13人からなる『トレモイ湖探鉱組合』なるものが結成された。私と仲間エドミラーが探鉱を進め 13人の人達が鉱区を取得し資金を調達してくれた。私には組合の株が4%与えられたのです』と。

1920年には鉱山の全貌も明確となり ここにホーネ鉱山が建設された。鉱床はすべて硫化物であり 1922年には山火事で被害をうけ一時は鉱山放棄も考えられた。しかしホーネは金も異常に多いことを述べ 鉱区を広げ資金源について真剣に考え始めた。この鉱山開発はもはや小さい組合シンジケートではどうにもならないことを覚り それにはニューヨークに乗込むしかなかった。こうしてニューヨークの協力者を探し求めた。

その年のはじめ 二人のアメリカ人がこの地に訪れた。サムエルトンプソンとハンフリーカードボーンである。彼等はカナダ鉱山に投融資を考えていた。ホーネの友人ピーターグラハムはこの事を知り この事をホーネに伝えた。渡りに舟である。かくてホーネとカードボーンの会談がもたれ 1922年の8月トンプソンカードボーンの2人は現金と機械で32万ドルの金を支払ってオプションを取得したのである。なお契約では10%の権利をトレモイ湖探鉱組合にも残し こうして一緒になってこの鉱山開発を進めたのである。このことは政府の鉱山委員会からも発表され このニュースによりケベックに近いこの一帯は鉱山ブームとなった。探鉱家として知られる ロバートギャンプル フレッドデビスがまず進出し ペットとマクドゥノウーの二人の兄弟（カナダでは有名な鉱業一家として知られている）等もかけつけている。1923年 ホーネートンプソングループは ノランダという名称の会社を設立し はじめて鉱区内の試錐を開始した。なおノランダという名称はノーザンカナダという所から作られた新語である。初めの試錐は何の示徴もなかったが 12本目の試錐で地表下約5mで塊状の硫化鉱体に着鉱し その深部は約43mまで続いた。初めの15mはほとんど塊状の磁硫鉄鉱でCu 0.93% Au 6.58ドルも含まれ その次の24m間はCu 8.45%を示し 銅鉱石が主体であることが確認された。

1927年には生産が始まり 14カ月後には鉄道も開通し この鉱山はノランダが90%の株を所有する鉱山会社（ホーネカッパーコーポレーション）として前進することになったのである。しかし1927年ホーネは彼の株を会社に譲り 鉱業界から引退し ノバスコチャで立派な農夫となり 1953年 89歳で生涯を閉じている。

一方 トレモイ湖探鉱組合のメンバーは ホーネのおかげで32万ドルのオプションを受取り ノランダの株式125,000株による配当ですでに600万ドルをうけ 次の20年間には 約750万ドルは得られるだろうといわれている。1923年の有名なH鉱体発見はノランダの価値を高め 1931年の新鉱体発見によりノランダは盤石の基礎をえている。これは『ローH』と呼ばれている鉱床である。1926年には早々とホリンジャー社の融資をうけて ノランダは銅の製錬所を建設し それに伴って二つの町も作られた。一つは『ノランダ』であり 他の一つは『ローイン』である。この二つの町は今日でも北ケベックの鉱工業・商業の中心地として栄えている。近年ノランダはセントローレンス河口のガスペにも銅鉱業中心地を作った。

1935年 ノランダはケベック地質調査所のレポートを

検討した結果 ガスペ一帯は 金属鉱物が豊富であることを知った。早速ノランダのベル博士に1937年再調査を命じた所 同博士も有望である旨報告した。そこでノランダはこの地に鉱区をもつミラー一家の協力を得て開発オプションを得た。ミラー一家の鉱区は 1909年 アルフレッドミラーがこの地を探検し 赤く焼けた岩石を発見し その記録を子供に伝え ミラー三兄弟が1921年再調査してこれを確認鉱区を設定していたものである。ノランダは試錐を始めたが第二次大戦となり一時休止 その後ガスペカッパーマインリミテッドを設立し 1948年試錐を再開してここに埋蔵鉱量3,000万トンの銅鉱床を確認している。

鉱山は1951年に生産を始め選鉱場は1954年末には動きだし 同年製錬所も活動開始した。これらは二つの谷間に作られ 新しい町は ムルドッチビルと名付けられた。これはノランダの初代社長ジェームスムルドッチに因むものである。ノランダの主要産物は金 銀 銅でありカナダ非鉄金属生産の約40%を占めている。最近は木材の共同開発のほか スチールワイヤロープ プラスチックパイプ 鉄鋳物生産にも進出し 特に亜鉛生産は注目され年間に24万トンの大量に達している。その原料鉱石はケベックに建設したバレーフィールドの製錬所で精製され 能力残は輸出されている。

(4) 小説に因み発見されたフリンフロン 物探で発展したハドソンベイ

1915年の暑い夏のことである。探鉱家の一グループが カナダマニトバ州とサスカチュワン州の境界西側に点々と続く湖沼地帯を調査探鉱していた。この地区には部落といっても名もなく ほとんど人跡未踏 旅行者が来ても止まることのほとんどなかった時代である。

しかし トムクレイトン ジョンおよびダンモッサー兄弟 レオンおよびイサド レディオオン兄弟そして ダンミリガンといった探鉱家達は例外であった。

彼等は互に助け合い 情報を交換して探鉱した。また彼等はインディアン達とも仲よく インディアンの採集してきた岩石鉱物を鑑定してやった。特にクレイトンは硫化物の鑑定には秀でていたらしい。

現実として 鉱物の発見というのは多分にチャンス運に恵まれることが必要である。偶然に発見することも少なくないが これも運といえるかも知れない。このパーティは クレイトンの計画に従って食糧不足に悩まされながら探鉱した。しかし鉱物は発見出来ず 引き上げることになった最後の日 偶然に計画になかった所で露頭を発見している。この鉱床に彼等は『フリンフロン』という名前をつけた。この名前は彼等が調査

中愛読していた本の一章からとったもので その本はフロネチンという小説家の書いた『太陽のない町』といい『地球の深部に降りて行くと 太陽の光のようで太陽で無い光に輝く新天地 夢の町がある』という筋書であるらしい。こうして発見した露頭を中心に調査探鉱の拡大を計ったが 資金がとだえ 遂に彼等は探鉱を第三者に依頼した。かくてここに登場するのが ハイデンストンである。彼は約5万ドルを使って探鉱したが 当たった鉱石は品位が低く 鉱石組織も複雑だったためあきらめてしまった。そして 第三の男 デービィハスキンが現われた。彼も約5,000mの試錐探鉱を行なったが 十分な成果をあげ得ず引き上げてしまった。

最後に登場するのがウィリアムポイストンプソンである。彼は広範囲の調査探鉱から進めてまとをしぼり合理的な探鉱を進めた。その結果次々と新鉱体を獲得した。ここにマイニングコーポレーションオブカナダという勇壮な名前の会社を設立し 堅坑を開さくして大鉱床の全貌を明にしたのである。

当時鉱量は1,800万トンで 金 銀 銅 亜鉛鉱であった。しかし その後何らかの理由で1925年まで鉱区は開発されないまま放置されている。その理由は現在なお不明である。1925年 ニューヨークの鉱業家ハーリー等によって開発が計画され 当時の金で約85万ドルで開発が始められた。1927年には再び新会社が設立された。これが今日にも続いている。ハドソンベイマイニングアンドスメルテングカンパニーリミテッド(通常その呼び名をハドベィといっている)である。この折上記マイニングコーポレーションオブカナダも一緒に さらに鉱業会社として著名なニュモントマイニングコーポレーションも参加(この会社の創設者は前記トンプソンであり 当時は小さかった)した。

1930年には鉱山はいよいよ正常生産を始め 以来 ハドベィは順調な成長を遂げ カナダ第三の非鉄会社となり 今日に至っている。1940年にはハドベィはマンディという鉱山も開発している。この鉱山はフリントと同じ年に第三者によって発見されたもので この鉱山は鉱量枯渇まで銅メタル約10万トンが生産されている。

1947年 アルベルトコッフマンは同社の主任地質技師として当時ウィニペック市にいた。ここで彼はマーガレットという名の鉱区を会社のために買取り(約400ドルで買ったと記録されている)これが今日のシストレイク鉱山となっている。この鉱区からは1964年まで約100万トンの鉱石が生産されている。ハドソンベィは1948年から電磁気探鉱を開始した。その成果はきわめ

て大きく 今日 同社が経営している12の鉱山のうち1/2がこの電磁探鉱で発見されたものである。そのうちノーススター ドンジョンの両鉱山は 高品位の銀 銅 亜鉛鉱山として知られており フリント スノーレイク鉱山と共に ハドソンベィのシンボルとして操業されている。同社のビーチレイク フレクサール コロネーションオスポーネレイク スタールレイク ホワイトレイク アンダーソン ゴーストレイク等の鉱山も近代的機械を駆使し科学的に操業されている。鉱業会誌はハドソンベィのこの発展に対して『ハドソンベィの今日の発展は 地質技師コッフマンシステムによる物探利用による探鉱の成果であり 企業に密着する学究の現われであり 科学探査におしみなく投資した経営陣の勝利である』とのべ さらに『カナダの物探技術は世界のあらゆる国より一歩前進している』ことを発表している。

(5) アンビル鉱山の発見と探鉱

鉱物 鉱石に関して全くの素人でも 鉱石発見の舞台では時に二枚目を演ずることがある。事実クロンダイクのゴールドラッシュでは鍛冶屋や理髪師 植木の職人 道路工夫等が専門の鉱山師に混って鉱業活動に奮闘している。しかし1900年 20世紀に入った頃からは 素人の発見は次第にむずかしくなってきた。一獲千金を夢みても その対象地は次第に奥地へと移らねばならない。

探鉱による鉱物の発見は かくて混乱と逆上との戦いであり 風雪に埋れる自然との戦い 冒険と苦闘 それらの集積を克服し かつ偶然な幸運が重ならなければならない。特に20世紀に入ってからは地質に明るい技師が科学的器材を擁して乗出してくれば 自然山師の行手はせまくなってくる。

しかし 地質技師といっても新しい鉱床発見は人跡未踏の奥地でなければむずかしく 彼等の成功には 発見の端緒の解明 詳細な探鉱計画 安価な開発計画 そして龐大な資金 利益の還元 収益性が要請されるようになってきており 新鉱床発見も容易ではない。

このためには 単独行動より組織による探鉱が効果的であり 鉱床発見も近道である。

北極圏の探鉱は困難な所の一つとされている。それを克服し素人と学者が組んで成功した例がある。それがカナダユーコン準州の北極圏内で大規模な鉛亜鉛鉱床を発見し 開発したアンビル鉱山のグループである。この鉱山の成功はインディアンと地質学者アロアオー博士の組織化のたま物といわれている。この鉱山の探鉱は 総指揮アロア博士 発見者インディアンのクーランの案内 ロナルドマッカラムの資金調達 ゴードンデビスの地質調査によるものであるが アメリカロサンゼ

スに本社をもつサイプラスマイニングコーポレーションの強力な資金技術協力も一翼になっている。

この地の鉱物の最初の発見は前述の通りインディアンのクーランであるが 彼は1953年パンゴルダクリークの河岸で黒い鉱物を発見した。 部落の物知りによりこれが鉛亜鉛であることが確認され そのニュースはまたたく間に広がった。 探鉱を主業務とするトロントのテッドチスホルム会社が早速に乗込んで試錐を行ない 亜鉛4.96% 鉛4.16% 銅0.27% 銀1.76オンス 金0.02オンス 940万トンを獲得した。 これが今日新聞で発表されているパンゴルダ鉱床である。

クーランは謝礼金として15万ドルを受取ったが 近くの町ホワイトホースで4～5日で使ってしまった。 彼は淡白で性格も大きく 仕事として自分で自分の鉱山開発を企て 再び山に入って探鉱を開始した。 インディアンの彼はパンゴルダに似た鉱石を求めて3年目 遂に第二の鉱床を発見した。 これが後にダイナスティ およびアンビル鉱床として発展したファロー鉱床である。 彼は早速 鉱区を設定し 友人 知人より借金をして探鉱にとりかかったが 素人の悲しさ 収益性を算出することが出来ず また当時の価格低下に合せて放棄してしまった。 この時 1956年 前記パンゴルダも鉱区維持が困難となり鉱区を カーアディソンマイニング社に譲渡してしまった。 カーアディソン社は そこで探鉱を継続し クーランも備い入れた。

クーランは1961年 三度目の幸運の星をみつけ カム銀鉛鉱床の示徴を発見している。 彼はインディアンであるが運に恵まれ 鉱山発見の選手でもある。

話変わって アオー博士はカナダバンクーバーで最も信頼ある地質技師として知られている。 ユーコン 西部アメリカを広く歩き 10億ドル以上の鉱床を発見した人としても知られている。

バンクーバー島に生まれ ブリチッシュコロンビア大学とカリフォルニア大学を卒業し博士号をもち オレゴン州立大学で岩石鉱床の講義をすると共に北アメリカの鉱床発見に努めてきた人である。 彼は探鉱調査の進行に伴い鉱山会社あるいはシンジケート設立の必要を感じていた。 1962年アオー博士はゴードンデビスというブリチッシュコロンビア大学卒の地質技師を第一号の社員として雇入れた。 デビスの最初の仕事は シトキン地区銅鉱床の野外調査であった。 デビスは大いに活躍し成果を上げた。 また 1962年末にはロナルドマッカラムが博士を尋ね 1964年にはクーランと博士が握手して 同年4月 クーランはファロー鉱床を提供しここに

ダイナスティエクスポートリミテッドを設立したのである。 アオー博士が社長 マッカラムが常務取締役 クーランが取締役鉱区担当 デビスが取締役調査担当という組織である。

同年 一般に株式が公開された 70万株が販売され 20万ドルが集められて探鉱費に当てられた。 これはすべてマッカラムの手腕とアオー博士の人望によっている。

早速ファロー鉱床の探鉱は積極的に進められ 物探化探も併用された。 さらに同年9月には 空中磁気探査もスタートしてユーコン州内に無数に鉱徴異常地が発見された。 磁気異常 重力異常 化探異常地の重複する所には試錐が行なわれ 約1万mの試錐の結果 ここにファロー鉱床の全貌は明らかになった。 時に1965年6月末のことである。

しかしここで会社は資金難となり再び20万株を公開した。 この時は一株一ドルで売買され 思った以上の資金が集った。 でも なお資金が必要であるため 会社はサイプラスマイニングコーポレーションと交渉し 24時間という短時間の会談によって契約が完了し サイプラスは5万ドルを用意した。 こうして探鉱は順調に進み 同社は道路建設についてユーコン準州に交渉し この探鉱開発プロジェクトは佳境に入った。 遂に労務者は120人を越えた。

マッカラムは ユーコン バンクーバー ロサンゼルスを飛廻り クーランは 100トン鉱石を集めては 探掘テストをしたり道路 河川 橋梁を担当し デビスは試錐のほかブルドーザーに乗ったり 堅坑の下で活躍した。 アオー社長は夜明けから日暮れまでヘリコプターにのって広域の調査を続行し一糸乱れずの行動をとった。 このことは株価にも現われ いつのまにか同社株は一株15ドルに達した。

1965年11月末 第2鉱体の探鉱も完了した。 この時点で鉱石の品位は鉛 亜鉛を合わせて約10% ノーザンマイナー紙は 鉱量約3,000万トンに達したと発表した。 早速F/Rの作成 選鉱テストが始められ これは1966年6月に完了した。 それにより本鉱山開発には約1億ドルの建設費が必要であり 世界一の鉛亜鉛鉱山となることが保証された。 こうなるとあとは資金調達業務である。 組織と資金調達の組み合わせは 利害得失があつてむずかしい問題の一つである。 こうして1965年12月1日 新会社アンビルマイニングコーポレーションが設立された。

(以下 13頁へつづく)